

インドにおける持続可能な開発のための 伝統的農業：SATOYAMAのアプローチ

活動地域  インド



急峻な土地で多様な作物が栽培される焼畑地

ひろげる助成

3年目

調査研究

Jhum動画視聴数 **416回**

海外視察（フィリピン）参加者 **13人**

今年度計画の達成度 **90%**

全体計画の達成度 **85%**

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

プロジェクトは新型コロナウイルス禍前に、人的交流を重視して計画された。事前調整中に築かれた関係者の期待があり、活動意識を維持するためにも大きな内容変更はできなかった。

■ 工夫した点

イベントの開催場所、開催方法、視察の訪問先を、行動制限下でも可能なものに変更した。新型コロナウイルス禍前からのネットワークがいかされた。

課題

伝統的農法である焼畑にはその地で育まれた知的財産が詰まっているが、環境に害すると生産性が低いという固定観念が地域固有の知的財産の消滅・劣化を招いている。

目標

伝統的な農業に対する正しい知識が広がる。

活動内容と成果

2年目までに作成した論文集をコヒマ市で発表。短編ビデオと合わせて、SATOYAMAイニシアティブのネットワークで国際的に紹介。インド国内の政策にいかすべくワークショップも開催した。

新型コロナウイルス禍の行動制限が緩和され、初年度から計画していた海外視察を実施することができた。感染状況・感染対策を踏まえて訪問先を見直す必要があり、最終的にはフィリピン・キリノ州とイフガオ州を訪問した。

伝統的な農業について広く発信したことで、正しい認識が広がったとともに、他地域の状況から伝統的農業の価値認識も深まった。



フィリピン・イフガオを視察する一行

全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルス禍を経験して、多くの作業がオンラインで片付けられることが認識されるようになったが、人と人とのネットワークの構築や信頼関係の醸成には、対面での交流が不可欠であることが今まで以上に強く認識された。プロジェクト終盤で対面の活動が実施できた意義は大きいと考える。インド北東部での焼畑については、本プロジェクトでの知見の蓄積を基に、ダイアログを続けていくことが重要と考えている。



インドSATOYAMAワークショップ

Darbari Seth Block, IHC Complex, Lodhi Road,
New Delhi, India
HP : www.teriin.org



今後の
展望

先進地視察やスタディツアーは継続したい。視察に参加した農家と参加していない農家の間でより効果的な情報交換を村の中で行っていきたい。視察前に視察に参加する者と村に残る者の間で関心事を共有し、視察後に意味ある報告会を開催する、視察で得たものを評価して可能なものから実行に移す等の取組みを工夫したい。

